

東アジア日本語教育・ 日本文化研究学会報告

新羅大学院特別教授 藤井茂利

192

学会での研究発表会が終ればもう学会も終わったというよふな思いが強くなる。大阪から参加された臼江先生も帰られるべく学会受付前で呼んだタクシーを待つておられた。

当日の私の発表内容については特にコメントは頂けなかったが再会を約してお別れすることになった。

発表会場で特に行くべき会場はなく受け付け事務での仕事を側に立って見ていた。学費5千円の納入者名と金額は一致し学費は会長として保管した。

他の発表の会場の様子視察しようとして廻っていると懇親会費を整理していた会員が寄ってきて金額と出席者数が合わないと言った。こつこつ場合、最初出席の申出をしていたが途中キャンセルという事が多い。キャンセルの会員数を調べるよう指示、4名がそれであった。懇親会費の問題は慌

てる必要はなどなく解決、というより初めから問題にならなかったことであつた。得てして起る問題であつた。

13時になって各発表会場から発表を終えた会員が本館314号の大教室に集まつてきた。総会の司会を務める日本大学の椎名正博副会長の発言で總會を開くことになった。

先ず各会員それぞれ日頃の研究成果を発表されたことに謝辞を述べられた。初めて発表した会員は特に緊張したことであろうがこれからも頑張るよう激励された。

続いて現地踏査の行事が、参加希望者が余りにも少人数で到底実施出来なかつたことが残念に思えたことを述べられた。玉名地方は温泉地であり温泉阿蘇に行く必要はなく高千穂を考えたのであろうが日本古代の神話の地にはあまり興味が示されなかつたのであろう。

この行事とは別にもう一度高千穂神社に伝わっていると言われる日本神文字を拝見してみたいと思つていた。字形はハンブルに類似しているがどつして「神代の文字」と言われてるよふになつたのか、個人的に今も興味を持つてゐる。

總會司会者から19年度の会計報告をするよう指示があり報告は高継芬会計理事と共に会長が行つた。

議事は終わり次回の学会は韓国濟州島を計畫しているが日本から濟州島への航空機の運用は廃止されるという。日韓の政治問題の捻れが原因とも言われている。更に釜山から濟州島への連絡もうまくいくか現時点では不明である、と言つた。結局釜山でするのが一番都合が良い、よふで結局「釜山」ですることになり總會を閉じた。

これで閉会式が終わりホテルしらさぎ送迎バスが本館横に待機しているので移動するよふ連絡があるが、懇親会に行く会員ばかりではない。す

ぐ帰宅する会員もいる。お互い挨拶が交わされ送迎バスにはなかなか集まらない。係の人は早く早く急がせるが時間がかかる。少し落着き始めバスに乗る会員も増えてきた。大型バスでなくマイクロバスであるので3回か往復すると言つた。発車して凡そ10分会場に着く。二回大広間が会場になつていた。大きな丸テーブルにイスが10脚ほど配置してゐる。8テーブルがあり

各々勝手に腰掛けるが会長副会長の席は一番奥のマイクの装置近くの席と指定された。マイクロバスが到着する度に席が埋まつていくが全員揃うまで30分待たされた。会場九州看護福祉大學の學長志賀潔先生も参加されることになり会長と同じテーブル着席され会が始まることになった。

18時過ぎて会場校の職員の方の司会で会が始まつた。先ず会長の挨拶。発表会員を労う前に、10教室に及ぶ教室を発表会場として学会に無償借用を許して下さつた志賀學長先生に感謝の念を述べた。

本当に有難いことであつた。學長先生からご挨拶を頂いた。先生が仰る「本學は医学系の大學で、その方面の学会は開かれてゐるが今回は文系の学会、しかも日韓の発表者60名に及ぶ国際学会が開催されましたのは大変素晴らしいと思ひます。大學としても格が高く評価されることになつたのは何より有難いことでありました。」とお話であつた。

何つところによると學長先生は以前「万葉集」を勉強したことがあるそふで文系の學問に興味を持つておられるのも当然で、今回の学会の成功を喜ばれ何回も会長と盃を交わした。

19年の学会の開催校は日本各地の大學開催の公募をしてみたが応募したのは一件、しかしこれにはいささかの義理が担当教員は絡んでいたのではないかと想像されるがともかく学会の趣旨を理解して下さつた「九州看護福祉大學」に感謝を申し上げたいと思つた。かくして無事に終わった。